

今月も、講師がかつて経験したケースを材料に基本を確かめながら考えて行きます。

◆ケース学習への基本姿勢

◎ホメオパスとして一番重要なことは、「病んだ状態の人」が「健康な状態の人」に変わるようにサポートすることです。（オルガノン § 1）

◎ケースへの取り組み方は、急いでレメディを探すのではなく、「その人の何が癒されるべきか？」を明確にするところから始めます。（オルガノン § 3 の 1）

◆ケース学習の具体的な手順の再確認

CASE 学習での授業の順序は、以下のように進めます。

1. まず、CASE を一読して、ケースの①印象を書き留める。
2. 再読して、クライアントの特徴的な点（症状）をピックアップする。
3. ピックアップした特徴的な点の全体を眺める。
4. これらを元に、「前分析」を試みる。
 - ②健康度（0～10）
 - ③予後（良いレメディがある時／良いレメディがない時）は、どうなるか？
 - ④救急性（急性か慢性か～救急性があれば、そこから始める）
 - ⑤治癒を妨げているものは？
 - ⑥親和性（部位）
 - ⑦マヤズム傾向（Psora Sycosis Syphilis Cancer TB）
 - ⑧全体性（レメディはいくつ必要になるか？）
 - ⑨バイタリティー（0～10）
5. 本分析＝「何が癒されるべきか？」（病の核心）をとらえる。
6. 「何が癒されるべきか？」から外れない症状を Rubrics として選び、Rep. する。
7. Rep. 表の候補レメディから、ベストレメディを選ぶ。
8. 最終的には、ポテンシーとドーズを決めて、クライアントに提案する。

さて、ケース学習では、この教室を出たら、決して、その内容について話すことなく、守秘義務を守って下さい。

では、始めましょう！